

## 薬学実践英語 2

責任者・コーディネーター	構造生物薬学分野 阪本 泰光 教授		
担当講座・学科(分野)	分析化学分野、創剤学分野、構造生物薬学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	後期		
単位数	1 単位		

### ・学修方針（講義概要等）

2019 年現在で外国人人口比率は、岩手県で 0.6 %、東京都で 4.6 %であり、年々増加傾向にある。また、地方での人材不足解消を目指した 2019 年の入管法改正により、地方でも将来的に 1~2 割が外国人となることが予想され、地方の医療機関においても、英語での問診、服薬指導が必要となる。そして、薬剤師としてのキャリア形成に役立つ専門・指導薬剤師の資格および学位の取得には、国際学会での発表や英語論文の執筆が必要である。

また、COVID-19 のような未知の疾患や治療法に関する最新の情報の殆どは英語で提供される。そのため、薬剤師自らが情報を収集し、客観的に評価し、理解し、情報提供することが求められている。そこで、本講義では、自らの英語力を認識し、将来的な英語力向上に向けた自己学修能力を身に付けることを目的とする。

自らの英語能力の認識について

リスニングおよび文章読解のオンラインテストにより、自らの英語力を確認する。

臨床・研究・教育で必要となる英語力を身に付けるために

薬学・医学・生物分野の英文を読み、専門用語も含めて理解する。

英文問診票の作成やロールプレイを通じて医療現場での英語による情報収集能力の基礎を学ぶ。英語のビデオ教材を視聴し、その内容を理解する。

### ・教育成果（アウトカム）

薬学の研究・臨床・教育における英語の必要性を理解できる。

CEFR B1 レベル（高校 2 年、英検準二級相当）以上の英語力への到達に向けて学修できる。

医療現場に必要な症状・体調・身体部位・治療法・薬剤といった医療に関する基本単語を習得し患者や医療スタッフと簡単な英会話もしくはメモでコミュニケーションをとることができるように学修できる。

薬学・医学・生物分野の英文を理解し、その内容を要約し、説明できる。

英語のビデオ教材を視聴することにより、その内容を理解する能力を修得できる。

（ディプロマ・ポリシー：5,7,9）

### ・到達目標（SBO）

1. 自分の英語力を認識し、様々な場面で必要となる英語力を身につけるために学修できる。（☆）
2. 薬学の研究・臨床・教育における英語の必要性を理解し、説明できる。（☆）
3. 薬学・医学・生物分野の基礎的用語を説明できる。（☆）
4. 薬学・医学・生物分野の英文を理解し、その内容を説明できる。（☆）
5. 薬学・医学・生物分野の英語の音声、ビデオ教材を理解し、その内容を説明できる。（☆）
6. 患者や医療スタッフとのコミュニケーション能力を身につけるために学修できる。（☆）



					<p>1. 自分の英語力を認識し、様々な場面で必要となる英語力を身につけるために学修できる。</p> <p>2. 薬学・医学・生物分野の基礎的用語を説明できる。</p> <p>3. 薬学・医学・生物分野の英文を理解し、その内容を説明できる。</p> <p>4. 薬学・医学・生物分野に関する英語の視聴覚教材を理解し、その内容を説明できる。</p> <p>事前学修：事前配布する資料の英単語の意味を調べ、要約しておく。</p> <p>事後学修：講義で扱った薬学・医学・生物分野に関する内容を復習する。薬学・医学・生物分野に関する視聴覚教材の内容を要約し、理解する。</p>
10/20	金	2	分析化学分野	藤本 康之 准教授	<p>EF Set Quick(15分)の実施、基本英単語、医療用語の習得と医学・薬学・生物分野の英文読解、リスニング</p> <p>【双方向学修】</p> <p>1. 自分の英語力を認識し、様々な場面で必要となる英語力を身につけるために学修できる。</p> <p>2. 薬学・医学・生物分野の基礎的用語を説明できる。</p> <p>3. 薬学・医学・生物分野の英文を理解し、その内容を説明できる。</p> <p>4. 薬学・医学・生物分野に関する英語の視聴覚教材を理解し、その内容を説明できる。</p> <p>事前学修：事前配布する資料の英単語の意味を調べ、要約しておく。</p> <p>事後学修：講義で扱った薬学・医学・生物分野に関する内容を復習する。薬学・医学・生物分野に関する視聴覚教材の内容を要約し、理解する。</p>
11/17	金	2	分析化学分野	藤本 康之 准教授	<p>EF Set Quick(15分)の実施、基本英単語、医療用語の習得と医学・薬学生物・分野の英文読解、リスニング</p> <p>【双方向学修】</p> <p>1. 自分の英語力を認識し、様々な場面で必要となる英語力を身につけるために学修できる。</p> <p>2. 薬学・医学・生物分野の基礎的用語を説明できる。</p> <p>3. 薬学・医学・生物分野の英文を理解し、その内容を説明できる。</p>

					<p>4. 薬学・医学・生物分野に関する英語の視聴覚教材を理解し、その内容を説明できる。</p> <p>事前学修：事前配布する資料の英単語の意味を調べ、要約しておく。</p> <p>事後学修：講義で扱った薬学・医学・生物分野に関する内容を復習する。薬学・医学・生物分野に関する視聴覚教材の内容を要約し、理解する。</p>
11/24	金	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 教授	<p>EF Set Quick(15分)の実施、 英文問診票の作成、ロールプレイ 基本英単語、医療用語の習得と医学・薬学・生物分野の英文読解、リスニング 【ロールプレイ】【双方向学修】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の英語力を認識し、様々な場面で必要となる英語力を身につけるために学修できる。</li> <li>2. 薬学・医学・生物分野の基礎的用語を説明できる。</li> <li>3. 患者や医療スタッフとのコミュニケーション能力を身につけるために学修できる。</li> </ol> <p>事前学修：事前配布する資料の英単語の意味を調べ、要約しておく。</p> <p>事後学修：講義で扱った薬学・医学・生物分野に関する内容を復習する。薬学・医学・生物分野に関する視聴覚教材の内容を要約し、理解する。</p>
12/1	金	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 教授	<p>EF Set Quick(15分)の実施、 基本英単語、医療用語の習得と医学・薬学・生物分野の英文読解とデータ収集、解析 【双方向学修】【調査学修】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の英語力を認識し、様々な場面で必要となる英語力を身につけるために学修できる。</li> <li>2. 薬学・医学・生物分野の基礎的用語を説明できる。</li> <li>3. 薬学・医学・生物分野の英文を理解し、その内容を説明できる。</li> <li>4. 薬学・医学・生物分野に関する英語の視聴覚教材を理解し、その内容を説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：事前配布する資料の英単語の意味を調べ、要約しておく。</p> <p>事後学修：講義で扱った薬学・医学・生物分野に関する内容を復習する。薬学・医学・生物分野に関する視聴覚教材の内容を要約し、理解する。</p>

12/8	金	2	構造生物薬学分野	阪本 泰光 教授	<p>基本英単語、医療用語の習得と 医学・薬学・生物分野の英文読解、 リスニング EF Set Standard(60分)の実施 【双方向学修】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬学・医学・生物分野の基礎的用語を説明できる。</li> <li>2. 薬学・医学・生物分野の英文を理解し、その内容を説明できる。</li> <li>3. 薬学・医学・生物分野に関する英語の視聴覚教材を理解し、その内容を説明できる。</li> </ol> <p>事前学修：事前配布する資料の英単語の意味を調べ、要約しておく。 事後学修：講義で扱った薬学・医学・生物分野に関する内容を復習する。薬学・医学・生物分野に関する視聴覚教材の内容を要約し、理解する。</p>
------	---	---	----------	----------	---

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	Understanding Healthcare	Tsukimaro, K., Brooks, D., Skiguchi, A., Ichiyama, Y.	朝日出版社	2011
参	Essential 細胞生物学 原書第5版	中村 桂子・松原 謙一 監訳	南江堂	2021
参	医療スタッフのための英会話 ハンドブック	ルーサーリンク、 カートリンク、村瀬 忠	研究社	2015
参	Nature Digest	雑誌	Springer Nature	-

・成績評価方法

講義中に実施する EF Set Standard もしくは同等の試験による CEFR A2 レベル（A2：英検 3 級以上相当 中学卒業程度、B1：英検準 2 級相当 高校中級程度）以上の結果を成績評価の一部とする。評価の目安（A2：5%、B1 以上：15%）  
定期試験（85%）と EF Set のレベルで総合的に評価する。  
なお、公欠があった場合には学生に不利とならない評価方法を検討する。

・特記事項・その他

受講には最低でも CEFR A2 レベルの英語力（英検 3 級（中学卒業）程度）が必要です。  
受講前に、CEFR A2 レベルとなるように事前学修をしてください。  
講義中にオンラインテスト（EF Set）を実施するため、インターネットに接続できるようにセットアップした PC もしくはタブレット等および イヤフォン・ヘッドセット を持参すること。  
復習として、講義で配布した資料に出ている医学・薬学・生物学専門用語を覚え、英文の内容を理解すること。

また、講義で視聴した医学・薬学・生物分野のビデオの英文の書き取り、要約をすること。  
授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は各々最低 90 分を要する。  
CEFR: ヨーロッパ言語共通参照枠 様々な言語に共通した評価基準  
EF Set、定期試験後に、フィードバックとして補講もしくは解説の配布等を実施する。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン	1	講義資料の投影、および視聴覚資料再生のため
講義	プロジェクタ	1	講義資料の投影、および視聴覚資料再生のため